

Care & Communication

ケア&コミュニケーション

C O N T E N T S

<p>P1-2</p>		<p>DOCTOR'S TALK</p>	<p>可能な部分から最大限の努力を重ね 質のよい患者本位のチーム歯科医療を提供</p> <p>医療法人 AQUA もりもと歯科クリニック 院長 森本 敬太 先生</p>
<p>THE FRONT LINE</p>	<p>P3-4</p>		<p>実践で活躍できる歯科衛生士を育てる 歯科衛生士専門学校</p> <p>学校法人 あずま学園 八戸歯科衛生士専門学校 理事長 木村 功 先生</p>
<p>P5-7</p>		<p>INSIDE REPORT</p>	<p>後進を積極的に育てながら、 最新の矯正歯科医療の幅を広げる</p> <p>大山矯正歯科 院長 大山 照彦 先生</p>

可能な部分から最大限の努力を重ね 質のよい患者本位のチーム歯科医療を提供

医療法人 AQUA もりもと歯科クリニック 院長 森本 敬太 先生



森本敬太 院長

三重県・四日市市の「医療法人 AQUA もりもと歯科クリニック」は、6年前、古い建物を受け継ぎ、新たな歯科医院としてスタート。現在は名古屋からも患者が訪れる評判の歯科医院に成長した。その陰には森本敬太院長とスタッフのたゆまぬ努力があった。

住宅街の奥まった歯科医院を 居抜きで引き継ぎ、開業

もりもと歯科クリニックの開業は、2004年。住宅街の古い歯科医院を居抜き物件として手に入れてのスタートだった。

「しばらく閉院していたので、夫婦そろって草むしりからのスタートでした」

それでも開業初日は30人の新患が来院した。森本敬太院長は名古屋在住だが、出身は四日市。親族や友人知人に広く開業を知らせていたことが初日の新患数につながった。その後も順調に患者は増え、住宅街の奥まった場所ながら、遠方からも多くの患者が訪れる人気の歯科医院になっている。

毎年、増改築を繰り返し、 徐々に規模拡大と設備の充実を図る

森本院長が現在地に開業することになったのは、最小限の投資で開業するには、どうしたらいいか、と考えたからだ。森本院長は知恵を絞った。

まず着手したのは、受付と待合室の改築だ。以前は、2人座ればいっぱいになるような狭い待合室だった。それを5、6人は座れるように改築した。

「1年後にはチェアを2台から3台に増やし、その1年後には自費診療を意識して個室を作り、もう1台増やしました。3、4年目は予防とカウンセリング用に2台増設。5年目にはオペ室、今年にはCTを導入と毎年、増改築を加えています」

最近も駐車場に張り出す形で予防ルームを増築し、待合室もさらに拡大するなど、設備の充実を図ってきた。

実際に歯科医院に足を踏み入れると、古い鉄筋の建物が基盤のため、増改築に限界があるのを承知した上で、「少して

も患者さんに質のよい歯科医療と心地よい空間を提供したい」という森本院長の熱意が伝わってくる。

歯科医師とスタッフがチームを組み 熱心にスキルアップを図る

現在、もりもと歯科クリニックは、森本院長を含め、歯科医師は8名(非常勤と研修医含む)、歯科衛生士は6名、歯科助手4名、受付兼医療事務が2名の体制だ。これら歯科医師と歯科衛生士たちスタッフの力量を高める努力も怠ってはいない。もりもと歯科クリニックでは、チーム医療の視点で治療に取り組むことを重視しているからだ。

「従来のような院長一人で診る体制では、高度化した歯科医療には対応できません。一人の患者さんを歯科医師と歯科衛生士がお互いの専門性を生かして診る。そしてまた、歯科医師の中でも得意分野を生かして、最良の治療をすることが今の歯科医療には欠かせないと思っています」

そのために必要な技術や経営向上の勉強にはお金を惜しまない。まず森本院長は、開業2年目で採用した副院長の桃沢匡先生とともに力量を高めるため、国内外のセミナーに参加した。とくに森本院長が積極的に取り組んだのが、インプラントの研修だ。この頃から、森本院長はインプラント、副院長は歯周外科を専門とするように役割分担が決まってきた。その後も常勤の歯科医師や研修医を積極的に受け入れ、熱心に教育しているのも、専門医を増やし、地域医療を充実させたいという思いからだ。

歯科衛生士に対する教育も、最先端の知識と技術を身につけさせるため、歯科医師が講師を務める上級者向けセミナーにも参加させるなど、積極的にバックアップしている。

「その代わり、私が要求する水準も厳しいです。厳しくても、やり



和風の建物にモダンなデザインの建物を増築した



和風とモダンな建物の間が入り口



壁のイラストが印象的な受付



受付から予防エリアへの通路

広々とした通路を仕切り、個室風になっている



大きな机のあるカウンセリングコーナー



チェアまわりを茶と白で統一



治療用チェアは明るい雰囲気に



新しく設置したオベ用個室



今年、CTも新しく導入した

がいのある仕事をしたいと熱望するスタッフと一緒に仕事がしたいからです。それでもへこたれず、私についてきてくれるスタッフには、感謝しています」

患者数が多すぎる危機を乗り越え 原点に帰った治療に取り組む

開業以来、順調に業績を伸ばしてきた、もりもと歯科クリニック。「なぜ、この歯がダメになるのか。原因はどこか。どうしたら解決できるか」という情報を惜しみなく提供し、オリジナルの説明書なども使って、わかりやすく説明してきたことも、患者数の増加に拍車をかけた。

しかし、一度だけ、森本院長が軌道修正の決断を迫られたことがある。4年ほど前、患者が増えすぎてしまい、予約通りに診療が進まず、待合室が患者でいっぱいになった頃だ。

何か対策をと思いつつも、日々の診療に追われていた森本院長は、ある日、ショックな出来事に遭遇する。信頼していた受付の女性が退職を申し出たのだ。

「待合室で待っている患者さんの視線に耐えられないと言われた

のです。自分が目指してきたのは、一人ひとりの患者さんを大切にする歯科医療のはずだったのに、これだけはやるまいと思っていた反対の状況に陥っているのではないかと。スタッフからも、軌道修正を迫られました」

開業時、胸に抱いていた目標を思い出した森本院長は、予約システムを見直す。1日80人に限定し、一人の歯科医師が1日に診る患者数を10人程度に絞ることにした。

当初は患者からとまどいの声も聞かれたが、患者のためのシステム変更であることが理解されると、次第に予約を自発的に申し入れる人が増えてきた。また、患者と接する時間が長くなり、コミュニケーションが密になったことで、自費率もアップしてきたという。「開業から6年経ち、ようやく診療が安定期に入った気がします。今後は今の状態を継続し、さらに専門性を高めながら、充実したチーム医療を続けていきたいと思っています」



治療を正確に伝えるため、オリジナルの説明書を患者に渡す

Profile

森本 敬太 先生

- 2000年 愛知学院大学歯学部卒業。同大学第一補綴学臨床研修医。同大学第一補綴学専攻
- 2002年 同大学歯科理工学専攻 研究員 ●2004年 もりもと歯科クリニック開業
- 2006年 医療法人 AQUA もりもと歯科クリニック設立 ●2007年 厚生労働省歯科医師臨床研修医指導医研修終了。指導医免許所得 ●日本歯科理工学学会会員 ●日本補綴学会会員 ●日本顎咬合学会会員(認定医取得) ●日本口腔インプラント学会会員 ●JACID会員

医療法人 AQUA もりもと歯科クリニック

住所：三重県四日市市笹川1-59

TEL：059-322-1771 HP：http://www.morimoto-d.com/



森本院長と勤務医の先生方

実践で活躍できる歯科衛生士を育てる 歯科衛生士専門学校

学校法人 あずま学園 八戸歯科衛生士専門学校 理事長 木村 功 先生



木村 功 理事長

予防歯科の重要性や歯科医療の高度化により、歯科衛生士への期待が大きくなってきている。しかし一方で、数が足りないという現状も。そうした地元の悩みに応え、今年4月に開校した八戸歯科衛生士専門学校を訪問してみた。

高度な歯科医療に対応できる 歯科衛生士を養成

今年4月に開校した八戸歯科衛生士専門学校は、本八戸駅から車で15分ほど、八戸市が地域医療の拠点として整備を進める区画にある。全日制の3年課程で、一学年の定員は40名。高校卒業者が入学対象者だが、年齢制限はない。青森県南地方に初めてできた歯科衛生士専門学校だ。

理事長の木村功先生は、歯科医師であり、歯科大学や歯科衛生士学校で講師も務めている。それらの経験から、以前から歯科衛生士育成の必要性を痛感していた。

「歯科医療が進歩し、患者さんの要求水準が非常に高くなっている。そのニーズに応えるには、歯科衛生士の専門性が欠かせません。高度な知識と技術を持つ歯科衛生士の育成が急務です」

しかし、現状では歯科衛生士の絶対数が少ないこと、また地方における歯科衛生士の教育環境を充実させたいとの思いから、出身地に近い八戸に専門学校の設立を決意したという。「学校を作るというのは想像以上に大変なことで、開校まで6年かかりました。無事に開校できた今、地方から中央に向かって、こんな新しい歯科衛生士教育システムがある、という情報を発信していければ、と考えています」

臨床経験が豊富な講師陣による 実践を想定したカリキュラム

八戸歯科衛生士専門学校のカリキュラムの特徴は、臨床の現場を想定した実践的な内容になっていることだ。新しい学校だからこそ、今の歯科医療の現場ですぐ使える知識と技術を身につけさせたいと木村理事長は言う。

「国家試験の合格というハードルがあるため、学校のカリキュラムはどうしても試験対策に偏りがちです。しかし、国家試験の内容が最新の歯科医療からずれている部分もある。合格するのは当然として、卒業後、歯科医院での勤務も見据えた医療スタッフの養成所でありたいのです」

じつは、八戸歯科衛生士専門学校の講師陣は、全員が臨床の出身。実際に歯科医療の現場を経験している歯科医師や歯科衛生士が教えている。その一人、教務主任の天満屋敷正子先生は、八戸歯科衛生士専門学校の特徴をこう話す。

「カリキュラムに実体験を交えて教えられることが、私たちの強みです。私も歯科衛生士として歯科医院に20年勤務してきましたが、新卒の歯科衛生士が希望を胸に働き始めても、学校で学んだ知識が生かせないことがありました。そうした経験からも、学校の勉強と実際の勤務のギャップを埋めるような実践型の教育を心がけています」

コミュニケーションと 感性を磨く教育も取り入れる

もう一つ、八戸歯科衛生士専門学校で力を入れているのが、コミュニケーションと感性を磨く教育だ。

「ニーズが多様化し、さまざまなタイプの患者さんが増えたことで、歯科衛生士には、一人の人間として患者さんに接することのできる資質が必要になってきています。実際、現場からの声を聞くと、コミュニケーション能力の高い歯科衛生士が求められている。感性を磨く教育も歯科衛生士養成には必須のカリキュラムになっているのです」(木村理事長)

その授業とは、美術の時間に近い。一つの課題が決められ、イメージをふくらませ、絵を描いたり、造形物を作ったりする。木村理事長によれば、絵を描いたり、物を作る行為は、脳にカンフル剤のような役目を果たし、想像力を高めるのだという。

「歯は臓器の中でも複雑な形をしています。たとえば、スケーリングをするとき、見えない歯の奥がどんな形をしているか、どうすればきれいにできるか、想像力を働かせなければいけません。そうしたときに、授業で培った感性が役に立つのです」

男性の生徒を受け入れるなど、 新しい学校づくりにチャレンジ

同校の1期生は、募集時期の関係もあって、歯科医院での勤務経験がある生徒や他の業種からの転職組が多い。注目なのは、男性の生徒も一人、入学していることだ。

女性がほとんどの歯科衛生士の世界に男性がなじめるのか、学校側は彼の将来を考えて躊躇したが、新しい学校だからこそチャレンジ精神で受け入れようと決断したそうだ。

また、学校を作る過程でもユニークな試みをしている。歯科衛生士学校を新設する場合、設置する機器などの導入は、メーカーに依頼するのが一般的だ。しかし、八戸歯科衛生士専門学校は、歯科医療機器・材料・薬品等を扱う専門商社に頼んだ。

「メーカーさんをお願いするのもメリットが数多くあるのですが、私たちが生徒を送り出す先は、それぞれ違う機器を使っている歯科医院です。専門商社からのアドバイスであれば、どの歯科医院に行っても戸惑うことが少ない汎用性の高い実習施設が作れるのではないかと考えてお願いしました」

学校はスタートしたばかり。これからが本当のチャレンジ、と言う木村理事長。歯科衛生士に明るい未来を託す生徒たちの意欲をさらに刺激する教育をしていきたい、と力強く語ってくれた。



青森県南で初の歯科衛生士専門学校



意欲のある生徒さんたちが通う



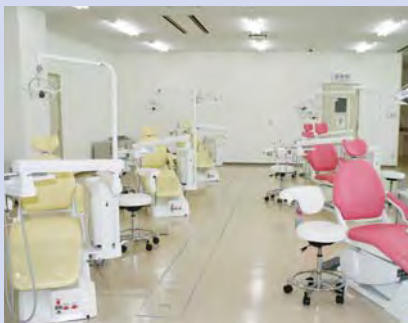
授業風景



熱心に講義を聞く生徒さんたち



チェアの役割を教える実習風景



チェアが並ぶ基礎実習室



プロジェクター等を備えた視聴覚室



広々とした実験室

歯科衛生士を目指す生徒さんたちにインタビュー

八戸歯科衛生士専門学校に第1期生として入学した生徒さんたちに、入学の動機や将来の夢、勉強のことなどを聞いてみた。

佐川千春さん(22歳・写真左)

入学前は歯科助手として2年半、勤務していました。歯科治療に興味を持っては持つほど、助手では限界があると感じて、入学を決意したのです。将来は自信を持って歯科の現場で働きたい。確かな技術はもちろんですが、患者さんと同じ目線で共感できる歯科衛生士になりたいと思っています。



石塚佑希子さん(18歳・写真中)

高校の先生に勧められたことと、地元で学校ができたことが志望のきっかけです。もし、学校ができなかったら、他の道を選んでいたいと思います。勉強は予想以上に大変で、自宅で復習する毎日です。でも、とても充実しています。将来は、子どもから高齢者まで親しんでもらえる歯科衛生士になりたいです。

菊池翔平さん(26歳・写真右)

派遣社員としていろいろな仕事を経験してきましたが、国家資格の取得に魅力を感じ、思い切って入学しました。女性が中心の職種ですが、美容師の世界でも男性が活躍しているように、男性だからこそできる歯科衛生士もあると思います。性別にかかわらず、患者さんに信頼される歯科衛生士になりたいです。

Profile

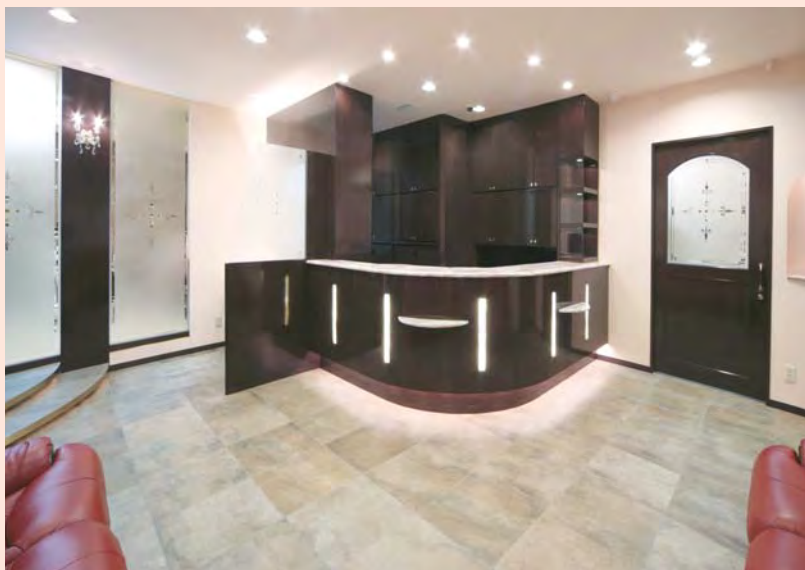
木村 功 先生

- 1997年 日本大学大学院松戸歯学部研究科卒業。歯学博士取得
- 1998年 日本歯科先端研インプラント認定医取得
- 1999年 歯科保存学認定医取得
- 2000年 交合学認定医取得
- 2007年 日本大学松戸歯学部講師などを経て、財団法人あずま学園設立準備財団理事長就任
- 2009年4月 学校法人あずま学園八戸歯科衛生士専門学校開校

学校法人あずま学園 八戸歯科衛生士専門学校

住所：青森県八戸市大字田向字毘沙門前23-2
TEL：0178-24-5127
HP：http://www4.ocn.ne.jp/~azuma_co/

受付と待合室。左右のドアが診察室への入り口



エレベーター前から見た玄関



ゆったりとしたブラッシングコーナー



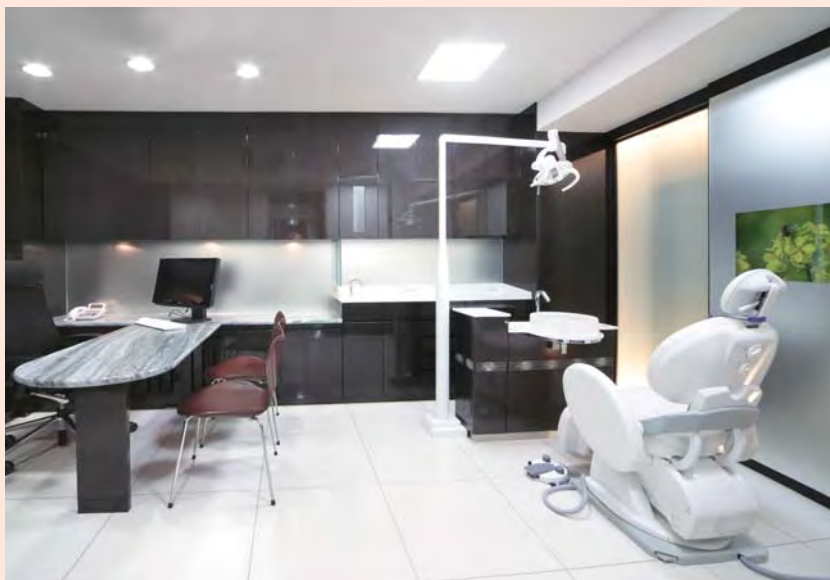
後進を積極的に育てながら、最新の矯正歯科医療の幅を広げる

大山矯正歯科 院長 大山 照彦 先生

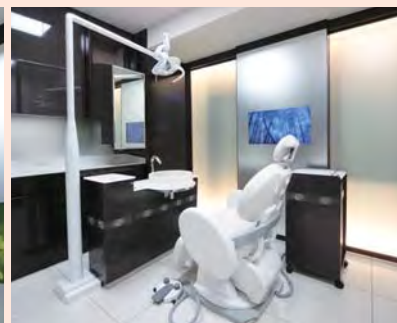
名古屋市の中心地に位置する「大山矯正歯科」。開業21年目の今年、「大人が落ち着く歯科医院」をイメージして全面改装した。後進の指導にも熱心に当たる院長の大山照彦先生に歯科矯正の現状と将来、今後の歯科教育についてうかがってみた。



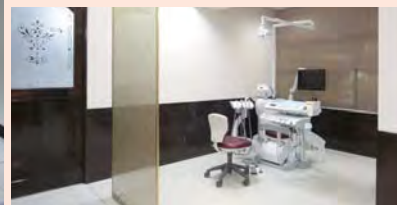
大山照彦 院長



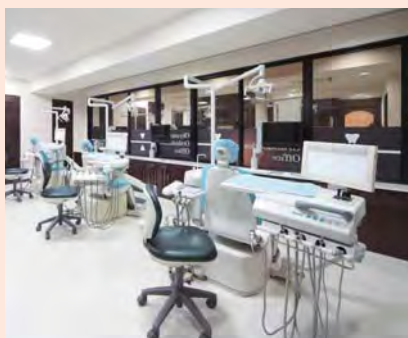
カウンセリングルームも兼ねた個室



チェアの前には収納可能な特注の鏡を設置



広々とすっきりしたチェアまわり



仕切りがないもう一つの診療スペース



3つあるカウンセリングコーナーの一つ



コーナーをうまく取り入れたチェアまわり

矯正の常識が変わり始めた今、 チャレンジする勇気が必要

「数年前から矯正歯科の常識ががらりと変わり始めた。パラダイムシフトが起ころうとしている今、チャンスをつかむには、最新の治療法にも意欲的にチャレンジすることが大切です」

大学院時代から、矯正一筋で治療に当たってきた大山照彦院長は、一般歯科と同様、矯正歯科にも変化の波が押し寄せていると話す。そう指摘できるのも、大山院長がたゆまぬ知識の蓄積と技術の研鑽を続けてきたからだ。

「開業後、上には上がいる。そう気づいた私は、講習マニアと自称したいほど、必死で勉強しました。なかでも、アメリカのアレキサンダー先生とロス先生には学ぶことが数多くありました」

そして近年、CAD/CAMや舌側矯正など、矯正医療の変化を肌で感じるたびに、新たな意欲がわいてくる。たとえば、CAD/CAMだ。シリコン印象からとった型をメーカーに送ると、メーカーは型に合わせてブラケットを削りだし、それぞれのステップに合ったアーチワイヤーと共に送り返してくる。歯科医師は、ステップ通りにワイヤーを装着すれば、矯正治療が進む。つまりCAD/CAMを使えば、一般歯科でも矯正が可能な時代なのだ。「診断や難症例には専門性が必要ですから、矯正歯科の仕事がなくなることはありません。しかし、一般歯科との垣根が低くなりつつあることを自覚したほうがいいと思うのです」

患者とスタッフ双方の居心地と 働きやすさを重視した改装

大山矯正歯科は、今年5月、院内を全面的に改装した。開業当時は子どもの患者が多かったが、近年は20～30代のOLが中心。最近では30～40代の健康意識が高い男性患者も増えている。そうした大人の患者に配慮したシックな内装だ。

「大人がリラックスできる空間がコンセプトです。内装や家具の色や形だけでなく、治療の効率化、患者さんへのサービスの向上、スタッフの動線も熟考しました」

たとえば、デジタル環境の充実だ。改装を機に3D撮影ができるデジタル・パノラマ・レントゲンを導入。その画像やデータをどのチェアでも、たとえ、上階の事務所のデスクで仕事をしているときでもチェックできるLANシステムにした。施工業者に「LAN用の配線パイプがこれほど多く並ぶ歯科医院は初めて」と言われるほど念を入れた。また、患者が見やすいよう、チェアに大型モニターを据え付けた特製のスタンドも取り寄せた。

スタッフの働きやすさの点では、東西に分かれる診察室の間にレントゲン室、技工室、消毒室を集中して設置した。これまでは、ワンフロアにあるテナントを借り増したために、それらの部屋が分散し、動線が複雑になっていたからだ。

「昔はゆとりを持たせるために遊び的な空間や動きも必要と考えていましたが、改装では徹底的に無駄を省きました。その快適性がリラックスできる診療にもつながると考えたからです」

充実した研修体制で歯科衛生士の キャリアアップを支える

改装後、大山矯正歯科ではカウンセリングルームを3つ作った。院長用と副院長用、そして歯科衛生士用だ。歯科衛生士にも専用のカウンセリングルームがあるのには理由がある。

矯正歯科では、舌癖の訓練に歯科衛生士の指導が欠かせない。舌癖が歯並びの悪さの原因になっている患者（開咬症）

の場合、大山院長は先に舌癖の訓練を1年半位行わないと、ブラケットを使った矯正には入らない。根本の原因である舌癖を治さないと、後戻り（開咬症）を引き起こすからだ。それほど、矯正歯科では歯科衛生士によるケアが重要ということだ。

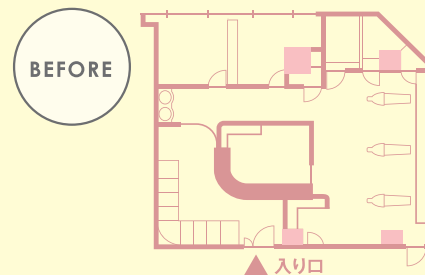
こうした歯科衛生士の重要性があるため、大山院長は、矯正歯科の場合、しっかり教育すれば、歯科衛生士の定着率は高いと話す。実際、同院の平均勤続年数は8～10年。主任の女性は、出産後も働き続けている。

「うちでは新人時代から年間10回以上、矯正だけでなく、接遇などの講習会にも送り出します。一般歯科医師向けの矯正講習会にも、最低3回は参加させています。研修後は1週間以内に私にレポートを提出。月2回のミーティングのうち1回はスタッフのスピーチなのですが、研修後は、受講したスタッフが講師になり、他のスタッフを教える講習会になります」

また、大山院長は、高い技術を維持するには年代の違う歯科衛生士を雇用することも大切と話す。先輩から後輩へ、大山矯正歯科における歯科衛生士の歴史を伝える。その継承が歯科医院のレベルにも直結すると考えるからだ。

床面積を広げ、動線を考え直し、 働きやすく快適さを重視した改装

「BEFORE」は開業当時の大山矯正歯科。その後、同じフロアのテナントをもう一つ借りて現在の床面積に。今年の改装で、さらに快適で働きやすい歯科医院に変わった。



改装前の受付と待合室 仕切られたチェア部分 現在よりも狭い印象がする診察室



**地域医療のレベルアップを目指し、
後進の指導に熱心に取り組む**

大山院長は歯科衛生士だけでなく、歯科医師の教育にも熱心に取り組んでいる。その背景には、大山院長が教育者になりたいという夢を持っていたこと、開業後も大学で非常勤講師を務めていること、顎変形症の症例を数多く扱う関係から、大学の顎変形診療科と連携していることなど、大学のOBや医局とのつながりが深く、若手の育成を頼まれることが多いという。「将来的には、うちの歯科医院に若い先生を教育できる研修

センターとしての機能も持たせたいと思っています。今の大学教育は臨床が弱い。医局と開業医では細かい部分のレベルが違う。その部分を私の歯科医院で学んでもらい、医局に戻れば、医局がレベルアップする。医局のレベルが上がれば、後輩のレベルが上がることになり、結果的に地域医療のレベルアップにもつながる。現在、私の勉強会には280人ほどの先生が参加しているのですが、その先生方と一緒に名古屋の矯正歯科のレベルをもっと上げていきたいですね」

大山矯正歯科で行った顎変形症の事例

大山矯正歯科では、名古屋市でトップクラスの顎変形症の症例数を扱っている。その豊富な症例の中から、特徴的な2例を紹介していただいた。

症状

骨格性下顎前突

オペに際しての注意点

受け口顔貌をできるだけ改善する。緊密な咬合関係の形成を行った。



患者さんのコメント

23歳の男性です。物心ついてからこれまで、ずっと受け口がコンプレックスでした。自分の口はもう治らないと思っていたら、矯正治療と外科手術で治すことができると知りました。それも、保険治療でできるとのこと。思い切って治療することに決めました。1年10ヶ月後、かみ合わせも顔立ちもこんなに良くなるとは思っていませんでした。一大決心して本当によかったです。

症状

開咬症

オペに際しての注意点

開咬症なので、術後の安定のため、舌のポジショニングのトレーニングと口唇力の強化を行った。



患者さんのコメント

19歳の学生です。将来は英語の先生になりたいのですが、S音・T音の発音が非常に悪いので治すために来院しました。治療期間は1年3ヶ月です。英語の検定にも無事、合格し、英語の発音にも自信が持てるようになりました。

Profile

大山 照彦 先生

- 1982年 岐阜歯科大学卒業 ●1986年 朝日大学歯学部大学院(歯科矯正学)博士課程修了。博士号取得 同大学歯科矯正学講座非常勤講師
- 1988年 大山矯正歯科開院 ●1989年 更生医療・育成医療指定
- 1990年 日本矯正歯科学会認定医取得 ●1992年 名古屋歯科衛生士専門学校歯科矯正学講師 ●1995年 朝日大学歯学部歯学矯正学講座同門会理事
- 1997年 中日本矯正歯科医学会学術理事 ●2006年 日本成人矯正歯科学会評議員

大山矯正歯科

住所:名古屋市中央区栄5-16-14 新東陽ビル2F
TEL:052-251-3332 HP:<http://www.ooo3332.com/>



大山院長とスタッフのみなさん

SASAKI

お問い合わせ・ご意見:『C&C』事務局 細谷俊寛

FAX 0120-566-052 <http://www.sasaki-kk.co.jp>

Vol.19 September 2009 発行:ササキ株式会社 東京都文京区本郷3-26-4 ササキビル4F

●本誌に記載された個人の氏名・住所・電話番号等の個人情報の悪用を禁じます。●本誌の記事・写真・図版等を無断で転載・複製することを禁じます。